

2022 Summer  
Referee's Report

# 全国大会 参加報告 2

- ・ 第4回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)
- ・ 第53回全国中学校サッカー大会



# XF CUP 2022 第 4 回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18) 参加報告書

兵庫県 2 級審判員 西嶋咲音

## -目次-

- 1.はじめに
- 2.大会概要
- 3.事前研修会
- 4.担当試合&各日の研修会
- 5.大会全体を振り返って



## 1.はじめに

8月1日より群馬県で開催されました、第4回日本クラブユース女子サッカー大会の参加報告をさせていただきます。関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に日頃からのサポートを感謝申し上げますとともに、猛暑と感染症への万全な対策で大会を円滑に運営していただいた全ての大会関係者の皆様に感謝申し上げます。

## 2.大会概要

日程：2022年8月1日(月)～8月8日(月)

開催地：群馬県

出場チーム：全国9地域の代表16チーム。4チームずつグループに分けグループステージを行い、各グループ上位2チームがノックアウトステージに進出。

## 3.事前研修会

### -大会1週間前-

- ・サッカーにおいてレフェリーとは
- ・大会役員としての心構え
- ・事例検討①GKへ向かうタックル

⇒見るべきポイントはアプローチ、チャレンジの激しさ、タイミング

- ・事例検討②負傷者の対応

⇒競技者の安全確保が最優先、懲戒罰の判断も忘れずに

#### -大会前日-

- ・試合要項、注意事項の確認
- ・競技規則の改正について

☆大会成功のため、自身の成長のため、仲間と共に

#### 4.担当試合&各日の研修会

##### 【大会1日目(8/1)】

#### -担当試合-

A グループ

ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ vs ジェフユナイテッド市原・千葉レディース U-18

主審：勝又美沙希氏(女子1級/宮城) 副審：西嶋咲音、千葉健司氏(2級/群馬)

4審：伊東寛紀氏(運営スタッフ)

Ins：松崎康弘氏

この試合では危機管理が大きなテーマとなりました。事前に決まっていたユニフォームが実際着用してみると見分けにくかったことや、耳に補聴器を着けている選手がいたことから、些細なことにも配慮を怠らず不安材料はなるべく減らすことが大事だと感じました。試合中の危機察知・管理だけでなく、試合前からピッチや選手の状態を確認し、時には審判としての権限を用いて試合環境を整えることも審判団の役目であることを学びました。

#### -研修会-

「動きとポジショニング」 Ins：木崎博昭氏

どんな情報を基に動いて最善のポジションを得ようとしているか？

#### 視覚情報

- ① ボールホルダー
- ② 攻撃側競技者
- ③ 守備側競技者
- ④ スペース
- ⑤ レフェリー自身の位置
- ⑥ 副審

##### 【大会2日目(8/2)】

#### -担当試合-

D グループ

日テレ・東京ヴェルディメニーナ vs クラブフィールズ・リンダ

主審：西嶋咲音 副審：勝又美沙希氏(女子1級/宮城)、川原雅之氏(2級/群馬)

4審：丸山和毅氏(運営スタッフ)

Ins：浅井昭子氏

大会2日目は主審を担当し、自身の大きな課題である外側に開く動きや、観ている人が多い大会だからこそそのジェスチャーの見せ方が反省点としてあがりました。また、次の展開の予測、FK時のボールを入れる場所はキッカーの立場で考えると選択肢が絞れてくる、とインストラクターの方にアドバイスを頂きました。

### -研修会-

「マネジメント」Ins：田測量也氏

マネジメントとは…競技者、チーム、ゲーム、それらを望ましい方向へ導くこと

#### CK時

#### ☆気付きが重要

- ・チーム戦術(ターゲット)
- ・競技者の意図や心理(対立関係など)
- ・試合展開(時間帯、得点差)

#### FK時

FKの定義…キッカーが全く邪魔をされずにボールを蹴ることが出来る特権

- ・クイックの保障⇒阻止した守備側競技者には警告も
- ・歩測の仕方⇒選手に向かっていくような歩測は避ける(嫌がる選手もいる)
- ・主導権は主審に

### 【休日(8/3)】

#### -研修会(+伝達事項)-

「リスクマネジメントとプレゼンス」Ins：松崎康弘氏

試合にはリスクがたくさん存在する

「怖い」と感じる⇒事前の対応/コントロール(リスク排除)⇒より良い試合環境の提供  
例えば、的確なオフサイドラインキープは良いリスクマネジメントと言える。



#### (伝達事項)

- ・大会1.2日目からの申し伝え
- ・タイムマネジメントの徹底

## 【大会3日目(8/4)】

### -担当試合-

C グループ

清水 FC 女子 vs FC 今治レディース NEXT

主審：西嶋咲音 副審：林崎航氏(2級/東京)、近藤辰氏(2級/群馬)

4 審：榊原豪氏(運営スタッフ)

Ins：木崎博昭氏

この試合ではファウルは少なかったものの、異議で警告を出すというシーンがありました。警告も妥当な状況であり、当該選手も素直に受け入れていましたが、その後の再開方法が適切ではありませんでした。このことから競技規則を正しく施行した上で、警告のタイミングや他の審判員との協力など、より良いゲームにする工夫を増やしていければと思います。その他にも注意の段階を踏む、という点で HT に前向きな言葉をかける、言葉の強さを同じペースにしないなど、主審としての信頼感を得る意味でも実践できることが沢山あることを学びました。

### -研修会-

「動きとポジショニング」 Ins：有田靖氏

予測・チーム戦術と連動 ・ボールの出し手と受け手の動き

↓

角度・競技者同士間が見える ・ブラインドにならない

↓

距離・もめ事が起きたときにマネジメント出来る ・説得力につながる

High physical ability⇒正しい判定

試合中に求められるフィジカルは計画的なトレーニングプランによって獲得できる。

自分のもっているフィジカル能力とサッカー理解を常に発揮し動く。

## 【大会4日目(8/5)】

### -担当試合-

準々決勝

スフィーダ世田谷 FC ユース vs 三菱重工浦和レッズレディースユース

主審：曾根未宇氏(女子1級/岐阜) 副審：西嶋咲音、阿部美季氏(2級/北海道)

4 審：大塚将治氏(運営スタッフ)

Ins：松崎康弘氏



この試合では GK のボールの 2 度触りが起き、間接 FK が行われました。その後蹴られたボールを GK が触れてゴールに入り、この 1 点が勝敗を分けることとなりました。しかしこの間接 FK の際に主審が手を上げ忘れていたこと、ボールが蹴られる前に近づいてきた DF を注意している時にキッカーがボールを蹴ったことから、結果的に点を決めたチームに有利な状況だったように見えてしまいました。何気ないシグナル一つ、マネジメント一つが試合の結果、試合の全体像に大きく関わることがある、という事を間近に感じる出来事でした。

## 5.大会全体を振り返って

私は今大会が初めての全国大会派遣で、試合はもちろんのこと、他地域から参加する審判員の方やインストラクターの方との交流にも不安を感じていました。ですが派遣期間の 6 日間を通して近い年代の仲間やとても頼りがいのある先輩方、気さくなインストラクターの方々と多くの関わりを持つことができ、同じ審判チームとして大会に携わらせていただいたことを嬉しく思っています。また、関西でお世話になっている方々の話で盛り上がることもあり、全国に仲間を持つことの心強さを感じ、私もそんな風な繋がりを持つようになりたいと思いました。

レフェリーとしては、自分がプレーをどういう風に見たいのか、そのために今一番足りていない要素は何なのか、と試合の中で考えることが多くなったと感じます。ポジションなのか動き出しなのか、角度なのか距離なのか、全ての場面で上手く修正を掛けることはできませんでしたが、イメージとしては掴めたので今後の試合で活かしていければと思います。また、レフェリングの魅せ方や細かい事にも妥協しないことが、レフェリーの信頼感や試合の流れに影響を与えることもあったと、この大会を通じて学ぶことができました。

今回の経験は私にとってかけがえのないものとなり、今後の審判活動へのモチベーションとなりました。自分の知らない場所で同じ 2 級として頑張っている仲間がいること、高いレベルを求められる女子 1 級の世界など、たくさん刺激をもらった一方で、全国でもそれほど多くはない女子審判員同士の絆を感じる事が出来て、何とも言えない安心感と女子 1 級への憧れ、頑張ろうという気持ちが沸き上がってきました。また全国の試合で笛を吹く機会が頂けるよう精進していきたいと思っておりますので、皆様今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

以上で大会参加報告を終わらせていただきます。最後になりましたが、今回派遣を承認して下さった関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



# 令和4年度全国中学校体育大会 第53回全国中学校サッカー大会参加報告

2級審判員 大谷美瑛

## [はじめに]

今回、8月17日～20日にかけて第53回全国中学校大会に女子1級審判員候補として参加させて頂きましたので報告を致します。今大会に参加するにあたりお世話になりました、山形県中体連の皆様、東北サッカー協会の皆様、大会関係者の皆様に御礼申し上げます。

大会名：令和4年度全国中学校体育大会

第53回全国中学校サッカー大会

～咲かせよう 君の花 北の大地とみちのくで～

開催期間：令和4年8月17日(水)～22日(月)

試合会場：山形県鶴岡市小真木原陸上競技場 ほか8会場



## [事前 zoom 打ち合わせ]

今大会参加前に女子1級審判員候補を対象に、全国大会へ携わる者としての心構えについて山岸佐知子氏と鮎貝志保氏からお話がありました。「心構えというのは、審判員という大会を支える役員であることを自覚し、全力で責務を果たすこと。そして常に周りから見られている意識をもつことです。また、心構えに加えて審判員の基礎・基本を確立していくことが重要である。」と言われました。基礎・基本というのは、競技規則の理解とアップデート、集団のために自分を活かせる人間になることです。このことが、ピッチ上での正しい競技規則の理解と的確な運用やコモンセンスにつながるため、最終的な正しい判定をするために重要であるというお話でした。

## [試合]

1回戦 藤沢市立鶴沼中学校 — 山口市立小郡中学校 会場：鶴岡市小真木原陸上競技場

担当：主審 アセッサー：渡辺典子氏

朝からの大雨で水たまりができていて箇所もあり、ボールが止まりやすい、ピッチに足がとられて走りにくい状況でした。両チーム足元が悪い状態でしたが、フェアプレーで拮抗した試合でした。

今大会中、女子1級認定審査試合で課題として上がっている①何を見極めるためのポジショニングなのか、理由をもって動くこと、②選手の思考を汲み取る、自分の意思を伝えるためのコミュニケーションを交えたマネジメントをチャレンジしました。振り返りでは渡辺氏から、「何を見に行こうとしているかが伝わる動きで、選手は主審の判定基準を受け入れてプレーに集中できているように見えた。」と仰って頂きました。しかし、スプリントの場面がほとんどなく、もっと近くで主審が見に行くと説得力を出すことを指摘して頂きました。試合中、自分自身でも感じていたことでもあり、グラウンド状況に関わらずいいポジショニングをとるためのフィジカル作りをしなくてはならないと思いました。

2回戦 静岡学園中学校 — 四万十市立中村中学校 会場：酒田市飯森山多目的グラウンド

担当：主審 アセッサー：鮎貝志保氏

前日の雨によりやや滑りやすくなっているピッチ状況でしたが、湿度は低く走りやすい気候でした。試合展開としては静岡学園の厚みのある攻撃に中村中学が、ブロックを敷いた守備をする場面が多く、ゴール前では選手同士の距離感が近く密集していました。試合中、選手が熱くなりすぎ声を荒げてしまう場面がありました。そんな選手に対して、気持ちを落ち着かせる間をつくるためにコミュニケーションをとりました。鮎貝氏からマネジメントの気づきとしてよかったとお褒めの言葉を頂きました。今まで、選手やベンチとのコミュニケーションが苦手でしたが、徐々にチームと関係性をつくれるようになってきている自信がついた試合でした。この試合では山岸氏からも振り返りを受け、バイタルエリアに入ると争点から距離が離れてしまう点についてアドバイスを頂きました。情報を入れようとして広い視野と角度をキープしていると、今回の試合のように選手が密集したときに情報量が多くなりすぎてしまう。事象の見極めをし易くするためには、距離を詰めて同一視野に入る選手を少なくすると、もっと説得力のあるポジションで見極めやすくなる。ボールの出し手と受け手からの距離感が同じになると、同一視するとき距離が離れるため、できるだけ受け手側に近い距離感で同一視できる角度をとることを教わりました。

### 3 回戦 青森山田中学校 - 修徳中学校 会場：鶴岡市小真木原陸上競技場

担当：副審1 アセッサー：鮎貝志保氏

前半は拮抗した試合が続いていましたが、後半から青森山田のペースとなり点差が開きました。ロングボールを受けた前線が、ゴール前にドリブルで持ち込む展開が多い試合でした。オフサイドラインの見極めでは難しい事象はありませんでしたが、負傷や交代の数が多く、審判団の協力を求められる場面が多くありました。4th がベンチ対応中に主審とアディショナルタイムの確認をしたり、負傷者の治療のために勝手にフィールドに入ろうとするトレーナーに声をかけることがありました。この試合の振り返りでは、映像を使いながら GK が相手 FW の深い位置にスライディングでトリップした事象の判定について協議しました。現場ではファウルのみで懲戒罰はありませんでしたが、映像を見返すと FW 選手が大きなダメージを受けてしまう可能性のある危険なスライディングであり、ラフプレーという結論に至りました。主審は距離が遠いところから判定しており、接触部位まで正確に把握しきれておらず、副審2からは接触部位を確認できていたため、「主審から副審のほうに助言を求めることができれば正しく見極めることができたのではないか。」と鮎貝氏からお言葉がありました。

#### [まとめ]

この大会は私にとって2度目の全国中学校サッカー大会への参加でした。前回は緊張感が強く、自分のレフェリングのことで精一杯となっていましたが、より少し気持ちの余裕をもって大会に臨むことができました。1日ごとに試合終了後のオンラインミーティングにて翌日の割当にむけ会場の特徴やチームの特徴について共有する時間がありました。その度に女子1級審判員の方が小さな気づきや質問をされていました。そのときに、事前打ち合わせでの審判員として最大限を尽くすとは、準備の部分から始まっているのだと気づき、自分の至らなさを実感しました。また、大会を通じて自身の課題をチャレンジしたことで今後の改善点を、より明確にすることができました。

今後は、常日頃からお世話になっております、関西サッカー協会・兵庫県サッカー協会の皆様にお役に立てる審判員となれるようステップアップしていきたいと思っております。